

日本家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 46

2011年5月30日発行

編集 野沢慎司（庶務委員・広報担当）

発行 日本家族社会学会事務局

〒631-8502 奈良市山陵町1500 奈良大学 社会学部 宮坂靖子研究室

TEL & FAX : 0742-41-9565

第21回大会へのご案内

第21回大会実行委員長 野々山久也

第21回大会は、関東以外の大学での開催ということで、本年9月10日（土）・11日（日）の2日間、神戸市にある甲南大学にてお引き受けすることになりました。昨年の第20回大会は、記念大会ということもあって、かなり多くの参加者があり、盛大であったことを思い出します。本年も、多くの会員の皆さまのご参加を実行委員会スタッフ一同、心からお待ちいたしております。

後になって恐縮ですが、このたびの東日本大震災の被災者の皆さまには未曾有の甚大な被害を受けられましたこと、この場をかりて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。かつて阪神淡路大震災を経験した神戸市にある甲南大学にとっては皆さま方の悲痛の思いは共感するに余りあるものがあります。どうか日本中が心から応援していることに希望をつないでいただきますようお願いいたします。

もちろん大会実行委員会スタッフは、第21回大会が素晴らしい思い出の大会になるように心から皆さまをおもてなしさせていただきます。そのためには、まず多数の方がたの発表、そして多数の方がたのご参加が大前提です。ぜひ神戸で多数の方がたとお会いできることを切望しております。

大会実行委員は、以下の方がたです。中里英樹、阿部真大、春日井典子（以上甲南大学）、安達正嗣（千里金蘭大学）、久保田裕之（大阪大学）、岡本朝也（関西大学）、平井晶子（神戸大学）、村上あかね（桃山学院大学）。どうかよろしく願い申し上げます。また大会運営に関しては、昨年度からの新しい方式の見直し作業をはじめ、準備段階を含め、何かとご不便をおかけすることになるかと思いますが、どうか会員の皆さまのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

大会の詳しいご案内は、今後の大会ニュース、学会ニュースレター、メールマガジン、学会ホームページなどにてお知らせいたします。ご覧くださいませようお願い申し上げます。

1. 日程

2011年9月10日（土曜）・11日（日曜）

2. 会場

甲南大学（〒659-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1）

JR摂津本山駅（普通のみ停車）から徒歩15分

阪急神戸線岡本駅（特急停車）から徒歩12分

3. 会場へのアクセス

○新大阪駅から新快速または快速に乗ってJR芦屋駅で普通電車に乗り換え、JR摂津本山駅にて下車（所要時間 23～27分。450円。ただし大阪市内までの長距離切符をお持ちの方は、290円。）：新大阪駅（JR新快速乗車）→芦屋駅（普通に乗り換え）→摂津本山駅（下車して徒歩15分）→甲南大学

○阪急梅田駅（JR大阪駅に隣接）から阪急神戸線特急に乗車して岡本駅まで所要時間 25分～30分（270円）：阪急梅田駅（特急に乗車）→岡本駅（下車して徒歩12分）→甲南大学

※交通機関の利用については、「大会ホームページ」および「大会ニュースNo.2」で詳細情報をお知らせします。

4. 昼食

生協食堂（土曜日のみ）、駅周辺の各種レストラン・飲食店、コンビニ等も利用できますが、お弁当の予約も参加費とともに受け付ける予定にしています。大学の近隣は住宅地のためレストラン等は少なく、また他の学会が同時に開催されており生協食堂も混雑が予想されるため、お弁当を申し込まれるか、駅周辺であらかじめ購入されることをおすすめします。

5. 参加費等

大会参加費

	事前納付の場合	当日払いの場合
一般	4000円	5000円
学生	3000円	4000円

懇親会参加費

	事前納付の場合	当日払いの場合
一般	4000円	4500円
学生	2500円	3000円

弁当（事前申し込みのみ）：1食（お茶つき）1000円

※前回から採用された、参加申し込みの新方式やクレジットカードも可能になる事前払い込みの方法などについては、「大会ホームページ」および7月発行予定の「大会ニュースNo.2」で改めて詳しく説明いたします。

6. 宿泊

神戸での開催ですので、大阪や京都からも出席可能であり、従来どおり宿泊についての便宜提供はいたしません。各自で手配してください。

7. 発表者のAV機器使用および資料配付

各室でPower Point 2007（OS: Windows XPまたはVista）が使用可能です。発表のための配付資料は、発表者の責任で指定部数のご用意をお願いいたします。

8. 託児サービス

大会期間中、甲南大学内に託児室を設置いたします。詳細は近日中に決定いたしますので、ご関心ある方は（担当：春日井典子・甲南大学）までご一報ください。

9. 大会に関するお問い合わせ

〒659-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 文学部社会学科 日本家族社会学会 第21回大会実行委員会

e-mail :

Webでの大会報告申し込み、参加登録、事前納付などについてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

e-mail :

FAX : 03-3368-2869

東日本大震災にあたって

日本家族社会学会 会長 渡辺秀樹

この度の東日本大震災に被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本家族社会学会では、まず、3月15日に会員の安否情報掲示板を国際文献印刷社の協力のもと設置しました。数件の貴重な情報を載せていただき、早い段階で安否を知ることができました（なお、不必要な情報が掲載された場合の対応を準備していましたが、削除すべきものはありませんでした）。

次に、3月26日開催の理事会で、被災された会員の2011年度会費免除（および、滞納会費がある場合は納入期限の1年間の猶予）を決定し、申請のしかたなど、会員宛の郵送文書（4月1日付）にて通知するとともに、学会ホームページ、学会メルマガに掲載しました（本ニュースレター、8～9頁の「事務局」報告にも再掲しました）。4月末までに、3人の会員から会費免除申請が届き、承認させていただきました。該当すると思われる会員は、申請してくださいませようお願いします。

この大震災に対して、われわれ家族社会学を研究するものは何ができるのでしょうか。学術レベルでの社会的貢献が問われています。日本学術会議社会学委員会では、社会学という専門とその研究蓄積を踏まえて、他委員会とともに緊急提言を出しています。障害者や高齢者、子どもたちなどの「震災弱者」の緊急のサポート、カウンセリングやケア、そのためのネットワーク作り、あるいはコミュニティ構築の重要性をはじめ、さまざまな課題が挙げられています。ホームステイ/シェアハウス/グループホームなどの多様な住まい方への支援、ひとり親家族あるいは里親関係などの制度の充実と支援もあると思います。

大震災は、住まい方に、そして親密な関係やケアあるいはサポートの関係に大きな変化を余儀なくします。われわれは、さまざまな〈つながり〉の可能性や、それらを受けとめる社会の可能性について、その実態と作動要因に関して理論的にも実証的にも研究を積み重ねてきています。研究における問題意識、あるいは分析結果が持つ意味（implications）に、より意識的になることが必要ではないでしょうか。政策提言、中長期的視野に立つ提案、それらの基礎となるしっかりした学術的根拠（evidence）の提示が求められているのではないのでしょうか。あらためて、〈家族社会学は何のために〉と問われているように思います。

理事会報告

2011年度第2回理事会（第7期第2回会合）議事録（抄）

（略）

各種委員会報告

編集委員会

編集委員会は、昨年9月から編集作業に取りかかった23巻1号を4月末に刊行し、現在は2号を10月刊行に向けて編集中です。1号には、論文11本と研究ノート1本が投稿され、厳正な査読と審議により論文3本の掲載を決定しました。そのほかに依頼原稿として巻頭言（玉水先生）、特別寄稿（森岡先生）、特集（学会シンポジウムの論文3本と趣旨説明文）、NFRJレポート3本、書評4本、文献紹介8本となり大変充実した内容です。

第6期編集委員会からの引継ぎ事項としては、専門委員と編集委員会が共有している査読ガイドラインを会員へ公開することや、投稿論文と公開済みの調査報告書等との重複に関する内規の見直し等、大きな課題を協議中です。

1号の編集を終えようとしている最中に、東北関東大震災が起きました。大変深刻な状況のなか、編集作業を続けてくださった皆様に心から感謝します。また、刊行間際には布施晶子先生のご訃報が入りました。編集委員会では、そのご業績を伝える企画を考えています。

（田間泰子・大阪府立大学）

研究活動委員会

1. 第21回日本家族社会学会大会について

研究活動委員会は大会に向けて準備を進めております。4月1日付で会員の皆さまには第21回日本家族社会学会大会ニュースNo.1をお届けしました。また、メルマガでお知らせしましたように、4月18日付で大会HP（<http://www.wdc-jp.biz/jsfs/conf2011/index.html>）を公開しました。テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジ等の申込みは4月末日で締め切りでしたが、自由報告の申込み締め切りは5月末日です。いずれも要旨原稿の締め切りは5月末日です。発表申込みは上記のWEB上で行ってください。その際にはマイページと同じID（会員番号）とパスワードが必要ですのでご注意ください。また、大会参加申込みは7月1日からWEB上で行うことができます。すでに大会ニュースNo.1でお知らせしましたように、大会シンポジウムのテーマは『経済不況と少子高齢社会の中の家族戦略』です。報告者はチャールズ・ユウジ・ホリオカ先生（大阪大学）、前田正子先生（甲南大学）、田淵六郎会員（上智大学）、コメンテーターは木本喜美子会員（一橋大学）、山田昌弘会員（中央大学）です。活発な討論が展開することを期待していますので、ふるってご参加ください。

2. 大会要旨集の電子化について

これまで大会の要旨集は印刷物のみの配布を行ってきました。しかし、大会要旨集の電子化について3月の理事会で検討された結果、本年度は印刷物と電子媒体（HP公開）の要旨集を併用することになりました。よって、要旨を作成する際にはこの点についてご注意ください。また、大会前に要旨集を読みたいという会員の要請に応じて、電子媒体の要旨集は大会直前に公開する予定です。日程については後日メルマガにてお知らせします。

3. 国際社会学会 RC06 との共催について

本年度は国際社会学会（International Sociological Association）のRC06（Committee on Family Research）セミナーが家族社会学会大会後の9月12日（月）から14日（水）まで京都大学において開催されます。日本家族社

会学会との共催ですので本学会員の多くの皆様の参加を期待しています。詳細については Committee on Family Research のHP をご覧ください。(http://www.isa-sociology.org/conference.php?t=160)

4. 日米ステップファミリー会議との共催について

ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン設立 10 周年記念事業として日米ステップファミリー会議の公開講演会が7月2日(土)に、シンポジウムが7月3日(日)に日本家族社会学会、明治学院大学社会学部附属研究所との共催で行われます。参加申込(無料)は<http://www.saj-stepfamily.org/>(HP)、conference (E-mail) から可能です。ふるってご参加ください。

(石井クンツ昌子・お茶の水女子大学)

庶務委員会

1. 会員の異動および会勢について

- ・会員の異動は、2011年3月25日時点で、新規会員12名(うち5名は2011年度から)、退会8名、会費減額適用者40名(うち4名が65歳以上)。会員数は731名(通常会員595、学生会員135、通常会員のうち会費減額会員40、賛助会員1)で、昨年同時期より3人の増加となっております。
- ・高野順子会員、Ajijima Wacharaporn 会員の連絡先が不明となっておりますので、ご存じの方は事務局までお知らせください。

2. 会費納入状況について

- ・2011年3月時点での会費納入率は90%、会費未納者は77名(うち2年分滞納19名)にのぼっています。会費納入率は昨年度同時期に比べ若干低くなっておりますので、すみやかな会費納入にご協力ください。
- ・オンライン決算による会費納入について検討してきましたが、導入は当面見送ることとなりました。

3. 学会ホームページについて

- ・東日本大震災後、学会ホームページに安否情報確認掲示板を設置しました。震災直後に貴重な情報をご投稿いただきありがとうございました。
- ・現在、学会賞ページの新設、英語版の改訂などの作業を進め、学会ホームページの一層の充実をはかっております。

4. 学会メールマガジンによる新刊書紹介について

- ・会員による新刊書の紹介を、1ヶ月に1度程度、学会メールマガジンで行っておりますが、新刊書情報をお知らせいただく方法が変更になります。これまでは、学会ホームページからリンク先のページで直接入力する方法でしたが、6月には会員専用ページ内に入力するシステムを設定する予定です。学会ホームページの左メニュー下にある「会員専用ページ」から個人ページに入り、入力する方式になります(会員IDとパスワードが必要)。今後とも情報の提供をよろしく願いいたします。

(宮坂靖子・奈良大学)

全国家族調査(NFRJ)委員会

1. 「第3回全国家族調査(NFRJ08)」研究会の報告会を開催します

これまで、NFRJ08 データを学会内で共同利用し、研究会を開催してきました。その成果を第二次報告書にまとめ、7月に刊行の予定です。刊行を記念し、NFRJ08 研究会の全体報告会を公開で開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

7月23日(土)・24日(日) 都内にて開催の予定です。プログラム等の詳細は、おってNFRJのHPに掲載しますので、ご確認ください(<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/>)。

2. 「全国家族調査パネルスタディ(NFRJ-08Panel)」Wave3を実施しました

NFRJでは、NFRJ08を起点(Wave1)とする「全国家族調査パネルスタディ(NFRJ-08Panel)」を実施しています。大規模追跡調査は2013年実施を予定していますが、毎年郵送で小規模な追跡調査を行っています。2011

年1月には1,852名を対象としたWave3を実施しました。

本調査実施と並行して、調査の実施主体であるNFRJ-08パネル実行委員会のもとに研究会を組織し、パネル調査に関する研究活動を進めています。関心のある方々の積極的な参加を募集しています。参加を希望される方は、NFRJのHPでご確認ください。

3. NFRJデータの積極的な利用をお願いします

NFRJのこれまでのデータ（NFRJ98、NFRJ-S01、NFRJ03等）は東京大学SSJデータアーカイブを通して公開しています。NFRJ08も近く公開予定です。SSJデータダウンロードシステム（SSJDA Direct）をご利用になりますと、データの利用申請ならびに報告がオンラインでできます（<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>）。引き続き、積極的な利用をお願いします。なお、ご利用の際には、規定に従った表記をお願いいたします。

NFRJの最新情報は、HP（<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/index.htm>）をご覧ください。

（西野理子・東洋大学）

事務局

1. 東日本大震災にかかわる会費免除・猶予について

東日本大震災で被災された会員の皆様にはお見舞い申し上げます。既にお知らせしておりますが、被災された会員の方には会費の免除等の措置がありますのでご利用ください。

(1) 東日本大震災被災者の2011年度会費の免除について

東日本大震災被災者の2011年度会費を免除することが承認されました。免除は自己申告になっていますので、被災された会員は、会費請求書が届いても支払いをせず、2012年3月10日（必着）までに免除をお申し出ください。（直接被災された会員のほか、ご実家が被災された学生会員なども対象となります。）

なお、会費免除申請のための決まった様式はありませんので、下記会員管理担当理事宛にメールあるいは郵送にて「東日本大震災被災に伴う2011年度会費免除申請」と明記の上、「お名前、ご所属、現在の連絡先（住所、メールアドレス等）」をお知らせください。

(2) 東日本大震災被災者の2009・2010年度会費の支払い猶予について

2010年度までの会費が未納の方で、東日本大震災で被災された会員の2009年度、2010年度会費の納入期限を、2012年3月31日まで1年間延長することが承認されました。（直接被災された会員のほか、ご実家が被災された学生会員なども対象となります。）

■会費免除の申請先・問い合わせ先

会員管理担当理事：永井暁子（日本女子大学人間社会学部）

TEL：044-952-6854 FAX：044-952-6869（永井宛と明記してください）

メール：

この情報は、学会HP「お知らせ」（http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/110401_2.pdf）にも掲示しています。お知り合いで被災された会員の方をご存知の方は、この件についてお伝えいただければ幸いです。

2. 常勤職にない会員の会費減額申請について

(1) 常勤職にない会員の会費減額申請の2011年度の期限を、2011年7月31日（必着）とすることが承認されました。

会費減額申請書は、学会ホームページ「お知らせ」欄からダウンロードできるほか、会員名簿の末尾にも掲載されています。（http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/not_4.html）

希望する会員におかれましては、すみやかに手続きをとっていただきたくご協力をお願いいたします。

なお、2012年度からは、申請期限が5月31日となりますのでご注意ください。

(2) 65歳以上の会員の方は、申請の際に、申請用紙に生年／月をご記入ください。

65歳以上の会員で一度減額申請が承認された方は、翌年以降も自動的に更新されますので、2年目以降は申請の必要はありません。

(3) 65 歳未満の会員の方は、年度ごとに減額申請を行っていただく必要がありますのでご注意ください。なお、会費の納入は、減額申請が承認されたことの連絡を受け取った後にお願いいたします。

■問い合わせ先：会員管理担当理事 永井暁子（上掲）

この情報は、学会 HP「お知らせ」（http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/110401_1.pdf）にも掲示しています。

3. 会費納入について

(1) 常勤職にある学生会員の方におかれましては、一般（通常）会員の会費の納入にご協力をお願いいたします。

(2) 会員各位に郵送した会費請求書に、銀行振込の場合の振込先の記載が漏れましたことをお詫び申し上げます。銀行振込をご利用の方は下記の口座にお振り込みください。

■みずほ銀行 高田馬場支店 普通預金 口座番号 5535615 口座名義 日本家族社会学会

なお、銀行振込の場合は、お振り込み後に会費請求書裏面の「支払明細通知書」を家族社会学会宛に FAX でお送りください。

FAX 送付先：(株) 国際文献印刷社内家族社会学会 03-3368-2822

4. 理事会議事録（抄）について

今号より「理事会議事録（抄）」を簡略化いたしました。不明な点や詳細については事務局までお問い合わせください。また、この件につきましてご意見がございましたら事務局までお寄せください。

（宮坂靖子・奈良大学）

訃報

札幌学院大学前学長、布施晶子先生が、去る4月5日早朝に逝去されました。布施先生は、本学会の創設期から長年にわたって学会運営に貢献されました。第1期(1992-95)、第2期(1995-98)、第5期(2004-07)と計3期にわたる通算9年間、本学会の理事を務め、研究活動委員として活躍されました。また2007年には、札幌学院大学で開催された第17回大会の大会実行委員長を務められました。心よりご冥福をお祈りいたします。
木戸功会員より追悼文をご寄稿いただきました。(学会事務局)

布施先生のご逝去を悼みます

木戸 功 (札幌学院大学)

昨年の5月に布施晶子先生よりお手紙をいただいた。献本させていただいていた拙著への礼状であったのだが、力強い筆跡で「病との闘い」のご様子なども記されていた。その後もなんだか手紙のやりとりはさせていただいていた。ぜひもう一度お会いしたいなと思っていたのだが、それはかなわなかった。とても悲しい。

2004年に学長職に就かれた布施先生の後任として、わたしが札幌学院大学に赴任したのは2005年のことであったが、単身赴任の家族社会学者ということで苦笑いされたことをおぼえている。とはいえ、以来公私にわたってご指導をいただいた。2007年には第17回の日本家族社会学会大会を札幌学院大学で開催したが、その準備と実施にあたって、実行委員長を務められた先生と、同僚の高田洋会員ともども仕事を一緒にさせていただいたことがなつかしく思い出される。

一昨年の9月のこと、翌10月から3月までの半年間に国内での留学研修の機会を与えられていたわたしは、学長室にご挨拶にうかがった。その間の研究テーマや予定などをお話しし、しっかり勉強してまいりますなどと少々堅苦しいことを申し上げたように記憶しているが、布施先生は、まあそれはそれでよいからあなたは家族サービスをしてらっしゃいよ、といったことをおっしゃられた。しばし大学を離れ、あとから知ることになったのだが、布施先生の「病との闘い」がはじまったのはそのあとのことであったという。

年が明けて3月の学位記授与式が布施先生の学長としてのさいごのお仕事だったかと思う。式の開始からしばらくして、車いすで壇上に登場された先生は、卒業生に向けて祝辞を述べられた。研修中ゆえ保護者席から様子を見ていたそのときの自分の気持ちを適切に表現してくれるような言葉は、やはりみつからない。ただそこにいたすべてのものに強く響いたであろう感動的なスピーチであった。すぐに病院に戻られたという布施先生とお話するチャンスはなかった。

さる4月9日に「布施晶子先生とお別れする会」がひらかれた。その日は新生の合宿でのオリエンテーションという毎年恒例の校務があり、わたしは出席することはできなかった。布施先生ゆかりの方々が集まれた会では、お元気だった頃の写真などもスライドで映されたとのこと。そのうち一枚をお分けいただいた。お元気なお姿は一昨年の入学式でのものだという。現在、先生の業績目録の作成がお近くにおられた方々を中心に進められているときく。

布施晶子先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



会員異動

(略)

編集後記

3月11日の東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。今回の未曾有の大災害に直面して本学会がとった対応などについて「東日本大震災にあたって」と題した渡辺秀樹会長からのメッセージを掲載いたしました(3頁)。また、急な依頼にもかかわらず、木戸会員には故布施晶子先生の追悼文をお寄せいただきました(10頁)。ほかに今号には、第21回大会の情報などを掲載しています。お忙しい中、原稿をお書きいただいた皆様に感謝いたします。9月に甲南大学でお会いしましょう。(野沢慎司・明治学院大学)